MUSASHINO for TOMORROW

Vol.140
Jun 2022

巻頭

国際舞台に飛翔する若き才能に注目

伊熊よし子｜音楽ジャーナリスト、音楽評論家

卒業生インタビュー

『サザエさん』は私の宝物

宇野ゆう子｜シャンソン歌手

ごあいさつ

武蔵野音楽大学学長・同附属高等学校校長
福井 直昭

清々しい初夏の季節を迎え、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

学内が未来への希望に満ちた新入生で賑わう中、2022年度の幕が開けました。未だ終息の兆しが見えないコロナ禍において、多くの皆様に、平時以上に大学運営への多大なご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2021年度を振り返りますと、一昨年来から模索し構築した、新時代の音楽大学における新たな教育の在り方――学生たちの学びを止めない多くの仕組みが、順調に機能した年度であったと思います。この未曽有の事態下においても、対面での前・後期実技試験や、予定していた演奏会のほぼ全てを滞りなく挙行できたことは、学生・教職員が一丸となり、大学の方針を理解し邁進し続けてくれたお蔭であり、深く感謝を申し上げます。

一方で、昨年度は、学校教育法に基づいて、７年以内に１回、国公私全ての大学に対し義務付けられている文部科学大臣の認証を受けた評価機関による第三者評価、いわゆる認証評価を受審した年度でもありました。詳細は本誌10ページに記載された通りですが、本学では、今回の評価に満足して留まるのではなく、積極的に自らの課題に対し改善向上方策を実践し、更なる充実・発展に努めて参ります。

さて、本年４月には、前号にてご案内したとおり、リニューアルされた楽器ミュージアムの一般公開を開始いたしました。江古田新キャンパスプロジェクトを立ち上げてから約９年、本学が所有する貴重な楽器の数々を、この新しい展示空間で一般の皆様に公開し、我が国の音楽文化の発展に寄与できることは大変光栄であります。また、校舎・ホールの建設のみならず、60年以上に渡る楽器蒐集（しゅうしゅう）の歴史を、未来へ継承していくことに関して、本プロジェクトは大変価値のあるものであったと自負しております。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

また、本プロジェクトの一環として、2023年末には、キャンパスから徒歩２分半の立地に、新女子学生寮が完成いたします。本寮は個室方式によりプライベート空間をしっかりと確保しながらも、一人暮らしでは得られない広い共用スペースを完備しており、さらにデザインは学生寮に対し一般的に持つイメージを覆す高級感とスタイリッシュさで、あたかもマンションのような建物になります。詳細は、次号以降で発信していきますので、こちらもご期待ください。

多くのことが目まぐるしく日々変化していく現代において、創立者の音楽教育にかける強い気持ち、建学の精神である「〈和〉のこころ」を不動のものとし、更に先の未来への基盤を充実させることが自らの使命であると考えております。今年度も皆様のご理解と、ご支援・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022年６月

国際舞台に飛翔する若き才能に注目

伊熊よし子 | 音楽ジャーナリスト、音楽評論家

グリーグの作曲小屋のひとつ（ノルウェー・ベルゲン）

かつてピアノ専門誌『ショパン』の編集長を務めた伊熊よし子さん。現在は音楽ジャーナリスト、音楽評論家として活躍され、インタビュアーとして国内外を問わず多くのアーティストに取材し、さまざまなメディアで発表されています。今回はクラシック界に精通する伊熊さんに、国際舞台で華々しい活躍を見せている注目すべき日本人アーティストをご紹介いただきました。

伊熊よし子 Yoshiko Ikuma

音楽ジャーナリスト、音楽評論家。東京音楽大学卒業。レコード会社、ピアノ専門誌「ショパン」編集長を経てフリーに。クラシック音楽をより幅広い人々に聴いてほしいとの考えから、音楽専門誌だけでなく、新聞、一般誌、情報誌、WEBなどにも記事を執筆。クラシックは「生涯の友」となり得るものであるという信念のもと、各アーティストの演奏、素顔、人生観、音楽観を自分のことばで伝えることに全力を傾けている。近著「35人の演奏家が語るクラシックの極意」（学研）。http://yoshikoikuma.jp/

世界中をまわっての取材

2021年10月、ショパンの故郷ポーランドのワルシャワで開催されたショパン国際ピアノコンクールは、反田恭平、小林愛実という若き日本のピアニストを世に送り出し、大きな話題となった。ここ数年を見ても、世界のビッグな国際コンクールにおいて、さまざまな部門で日本の演奏家が優勝＆入賞に輝いている。今回はその逸材の紹介をしたいと思う。

クラシック界では多種多様な仕事が存在するが、私は音楽ジャーナリスト、音楽評論家として活動し、音楽ジャーナリストとしてはアーティストのインタビュー、コンサート取材、録音取材などを行い、音楽評論家としてはコンサートの批評を書く公演評、レコーディングの批評を書く録音評などを手がけている。

ただし、評論活動よりもジャーナリスティックな仕事の方

樫本大進（ベルリン・フィルのコンサートマスター、ベルリンにて）

が自分には合っていると感じているため、インタビューや取材などの方にウエイトを置くことが多い。人の話を聞くことが好きなため、インタビューが一番合っているように思う。

このインタビューという仕事は、聞き手がたくさん話すことは避けるべきで、相手からいかに興味深い話を引き出すかが鍵となる。私の場合、もちろんテレコは置くが、メモをいっさい取らない。それを不思議がる人もいるが、決められた時間にずっと相手の目を見て対話を行い、最初のインタビューでこちらの顔を覚えてもらえたら、次回から話はとてもスムーズに運ぶ。

もちろん、インタビュー前にはそのアーティストのバイオグラフィーや活動の内容、演奏の特徴などはすべて頭に叩き込み、演奏や録音を聴き、当日はその記憶を頼りに話を進めていく。これは私の仕事に対する姿勢でありモットーであるため、他の人がどういう形でインタビューをしているのかはわからない。海外のアーティストでも日本のアーティストでも同じ姿勢で対峙し、これまで数多くの人に話を聞いてきた。もっとも多い年で74人に話を聞いている。海外取材も多く、さまざまな土地へと出かけているが、プライヴェートな旅とは異なり、お土産ひとつ買う時間もないのがふつうである。観光地などにもいっさい足を運ぶことはない。

10時間以上のフライトで疲れ切って空港に着くと、そこにすでに取材の担当者が待っていて、「マエストロがいましか時間がないといっていますので、これからすぐに指揮者室にご案内します」などといわれることもあり、時差でボーっとした頭をなんとかクリアにするのに必死になることがある。

よく「海外に行くことができてうらやましい」といわれるが、日本での仕事の10倍くらい大変で、取材の失敗は山ほどある。みんなに「失敗談を書いた方が、読者に喜ばれるんじゃない」とまでいわれるくらいだ。

コンサート取材やアーティストの取材だけではなく、これまで各地の国際コンクールの取材をしてきた関係上、最近のコンクールの日本人の優勝者＆入賞者の活躍はうれしい限り。今回は、そのなかで個性あふれる逸材を紹介したいと思う。

各国のコンクールを席巻する日本人ピアニスト

2021年のエリザベート国際音楽コンクールのピアノ部門は、務川慧悟、阪田知樹というふたりが第3位と第4位を獲得した。務川は2014年からパリ国立高等音楽院で研鑽を積み、フランス作品を多く演奏するようになる。

2019年にはロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクールで第2位を獲得。本選ではサン＝サーンスのピアノ協奏曲第5番を演奏し、「このコンチェルトは、３本の指に入るくらい好きな作品なんです」と語っている。演奏は直球型、自分の目指している音楽をひたすら追求していくもので、作品の内奥に鋭く切り込んでいくスタイル。シャイで寡黙な素顔とは異なり、生き生きとした躍動感に満ち、前進するエネルギーに満ちあふれている。

ワルシャワ・ポヴォンスキ墓地のショパンの両親の墓にて

阪田知樹は、2013年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて最年少入賞を果たしたことで一躍広く知られるところとなった。当時19歳。その後、ドイツのハノーファー音楽大学に留学し、名教授として知られるアリエ・ヴァルディに師事。名手パウル・バドゥラ＝スコダからも多くのことを学んでいる。2016年にはハンガリーのフランツ・リスト国際ピアノコンクールで優勝の栄冠に輝いた。彼は昔の名手たちの録音を好み、古い楽譜も収集し、それらから多くのことを学び、「ウラディーミル・ソフロニツキーの演奏が一番心に響く」と熱く語る。

2019年のロン＝ティボー・コンクールで優勝したのは三浦謙司である。10代前半からヨーロッパに移り住み、現在はベルリン在住。独特の世界観を備えたピアニストで、「たまたまピアノを弾いているだけ。音楽家として音楽全般を俯瞰して考えています」といい、演奏も広い視野をもち、枠にははまらない自由さが特徴だ。

2021年のショパン・コンクールで第２位という快挙を成し遂げた反田恭平は、モスクワ音楽院で学び、現在はショパン大学でさらなる研鑽を積んでいる。「ショパン・コンクールは子ども時代からのあこがれでした」といい、この入賞を機にさらなる高みを目指している。反田はオーケストラや音楽祭を創設し、録音レーベルを作り、夢は学校を建てることと明言。自身が創設した会社の社長でもあり、これまでにいない稀有な存在である。そして「有言実行の人」である。

第４位入賞の小林愛実は、前回のショパン・コンクールのファイナリストに選ばれたが、上位入賞は果たせなかったため、再挑戦して入賞をつかんだ。コンクール直前にはショパンの「前奏曲集他」をリリースしたが、これはコンクールの第３次予選でも演奏し、高い評価を得た作品。「アメリカに留学した当初、一時はピアノをやめたいとまで思ったことがありましたが、ショパンの音楽に救われました」と胸の内を明かす。

2019年のチャイコフスキー国際コンクールのピアノ部門で第2位入賞を果たしたのは、藤田真央である。このときは第１次予選でモーツァルトのピアノ・ソナタ第10番K330を演奏し、のちに複数の審査員から「モーツァルトがよかった」という賞賛の声をかけられている。その後、国内外でモーツァルトのピアノ・ソナタ全曲演奏に挑み、今秋９月にはCDがワールドリリースされる（ソニー）。

ミシェル・コルボ（スイスの指揮者、フランス・ナントにて）

実は、それに合わせ、いま私は藤田真央の単行本を執筆中である。生い立ちから現在にいたるまでを綴り、そこから藤田真央の音楽が自然に浮かび上がる内容にしたいと思っている（ぶらあぼ）。

2021年のアルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノマスターコンクール（イスラエル）で第２位入賞に輝いたのは、桑原志織である。アーティストには「一生弾いていきたい曲」という愛奏曲が存在するが、彼女はリストのピアノ・ソナタロ短調がその曲。桑原は３月30日紀尾井ホールでのリサイタルでも、この作品をメインに据えた。現在はベルリン芸術大学で勉強を続け、イェルク・ヴィトマン（1973～）などの現代作品にも挑戦している。

チェロ・ヴァイオリン界の俊英たち

チェロ界でも、みずみずしい音色で2019年、ミュンヘン国際音楽コンクールで日本人初の優勝に輝いた佐藤晴真は、現在ベルリンでさらなる研鑽を積んでいる。「ブラームスに心惹かれています。チェロの低音を効果的に用いて豊かにうたうように書かれているため、自分の声とシンクロする感じがする」という。

もうひとり、2021年のジュネーブ国際音楽コンクールのチェロ部門では、上野通明が日本人として初めて第１位を獲得した。現在ドイツでピーター・ウィスペルウェイに、ベルギーで

イタリア・アレーナ・ディ・ヴェローナ音楽祭

ゲーリー・ホフマンに師事している。ルトスワフスキが大好きで、ジュネーブ・コンクールでは、本選で演奏される機会の少ないルトスワフスキのチェロ協奏曲を演奏して審査員と聴衆の両方から大きな支持を得た。

ヴァイオリンでは、2016年にカナダのモントリオール国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で、辻彩奈が見事優勝の栄冠に輝いた。当時18歳。彼女の演奏は凛とした北方の空気を感じさせるもの。「このコンクールで絶対に演奏したかった」というシベリウスのヴァイオリン協奏曲は、流麗さと力強さが内包されている。2019年１月25日には東京・紀尾井ホールで“ヴァイオリニストのバイブル”とも称されるJ.S.バッハの「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ＆パルティータ」全曲演奏会を敢行した。ヴァイオリニストなら生涯に一度でいいから全曲を演奏してみたいと願う作品。それを21歳で成し遂げたのである。

岡本誠司は2014年にドイツのライプツィヒで行われたJ.S.バッハ国際コンクールでアジア人として初の優勝に輝き、2016年にはポーランドのポズナンで行われたヴィエニャフスキ国際コンクールで第２位入賞を果たした。現在はドイツのクロンベルク・アカデミーに在籍中で、反田恭平が中心となって創設したジャパン・ナショナル・オーケストラのコンサートマスターを務めることも多い。

アーティストの成長・成熟に感動

ここではピアノ、ヴァイオリン、チェロの入賞者を紹介してきたが、もちろん他のジャンルでも多くの才能が世に送り出されている。

沖澤のどかは2018年に東京国際音楽コンクールの指揮部門で女性として初優勝を成し遂げ、2018年にはブザンソン国際指揮者コンクールにおいても優勝の栄冠を手にした。現在はベルリン在住で、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督、キリル・ペトレンコの助手を務めている。その指揮は、「動きにまったく無駄がない」「落ち着いて音楽に没頭する」と評されている。

声楽家では、バリトンの大西宇宙（武蔵野音楽大学卒業および大学院修了）が欧米のさまざまな国際コンクールで受賞歴を誇り、現在はシカゴ・リリック歌劇場ライアン・オペラ所属として幅広い役柄で活躍している。

こうしてみると、国際コンクールの優勝者＆入賞者は、みな国際舞台ではなやかな活躍をし、さらなる研鑽を積み、自身の才能を伸ばしている。インタビューで彼らに話を聞くと、多くの人が「一生、勉強です」ということばを口にする。コンクールはスタート台。けっしてゴールではなく、コンクール後の活躍いかんでいかようにもその道が変容していく。彼らの前には大海原が広がっているが、そこには荒波もあり、それを乗り越えていく精神力と体力と気力も要求される。

私の仕事は、このようにアーティストのデビュー当初からずっとその人の成長を見守り、長い時間をかけてその活動を見続

ふだんは入れないウィーン楽友協会の資料室に取材で特別に入室

け、演奏の変容する様子を新聞、雑誌、WEBなどの読者に伝えていく。しばらく会わなかったアーティストが大きく成長し、その音楽が成熟して心に響く演奏を聴かせてくれるようになると、ことばでは表現できないほどの感動を得る。

最近は海外取材に出かけなくても、オンラインで取材やインタビューが可能になっている。もちろん対面で話を聞く方が表情も見え、リアルな対話ができるからその方が好きだが、コロナ禍ではオンラインが圧倒的に増えた。コンクールも、リアルタイムで世界中に配信されるようになった。時代は変化し、クラシック界も活字からデジタルへと移行されるようになっている。今後は、「音楽ジャーナリストという仕事はこんなにおもしろいんですよ」ということを多くの人たちに伝えていきたいと思う。いずれかの機会に講座をもち、この仕事を受け継いでくれる後輩たちに、仕事のノウハウを伝授していけたら幸いである。そのためには、私も「一生、勉強」である。常に膨大な資料を読み、音楽を聴き、新たな情報を集め、自分のなかに蓄積していかなければならない。それはどんな仕事でもいえることだろうが、クラシック界も時代の流れによって大きな変化を余儀なくされている。その流れに逆らうことなく、自分のできる方法でそれらを柔軟性をもって取り入れ、仕事に生かしていきたい。

令和３年度

音楽学部卒業生新人演奏会

令和４年４月21日　ブラームスホール

田中結女（打楽器）

村田可梨（ヴァイオリン）

鈴木 涼（テューバ）

茂木孔亮（ピアノ）

三島実重子（ソプラノ）

松倉千恵（フルート）

髙橋七海（ピアノ）

卒業生
インタビュー

『サザエさん』は私の宝物

宇野ゆう子 シャンソン歌手

放送開始から50年以上がたち、最も長くつづいているテレビアニメ番組としてギネス記録にも認定されている『サザエさん』。「お魚くわえたドラ猫 追っかけて～♪」と始まるこの国民的アニメのオープニングテーマ曲とエンディングテーマ曲を歌っているのが、本学卒業生の宇野ゆう子さんです。幼少の頃に童謡歌手としてデビューし、現在でもシャンソンを中心に多彩なジャンルの歌をうたいつづけている宇野さんに、ご自身の音楽人生や母校武蔵野の思い出をうかがいました。（2022年４月７日取材）

宇野ゆう子 Yuko Uno
５歳から童謡歌手として活動を始める。武蔵野音楽大学短期大学部声楽科卒業。師匠はシャンソン歌手で作曲家の宇井あきら。銀巴里などで実力をつけ、日本を代表するシャンソン歌手の一人として現在も精力的に活動中。1969年に東芝音楽工業（現・ユニバーサル ミュージック）と専属契約を結ぶ。国民的テレビアニメ『サザエさん』のオープニングテーマ曲、エンディングテーマ曲の歌唱者としても著名であり、ケンちゃんシリーズのテーマ曲も歌っている。現在は歌手活動の傍ら、日本橋三越本店等でシャンソン教室を主宰している。

シャンソンとの出会い

―― 宇野さんは幼少より童謡歌手として活動されたとのことですが、歌の道に進むきっかけは何だったのでしょうか？

宇野　私の実家の隣が音楽教室で、小さな頃から塀の隙間を覗き込み、漏れてくる歌声に聴き入っていたんです。その教室で学ぶようになり、ラジオ東京（現在のTBSラジオ）の『朝の童謡』という番組で歌ったりしていました。５歳の頃、番組ディレクターから専属にならないかというお話をいただき、本格的な活動を始めるようになりました。当時は童謡がとても盛んで、ラジオでの歌唱以外に、遊園地やデパートの屋上などのステージで歌うことも多かったですね。ただ、小学校の途中で音楽活動は一旦休止しました。

―― 学業との両立が難しかったとか？

宇野　そうですね。姉がある中高一貫校に通っており、私もそこを受験するように両親に勧められたんです。今となっては結果的に良かったんですが、受験に見事失敗しまして（笑）。先述のディレクターが代わりに紹介してくださったのが、これも中高一貫校の上野学園。ここなら中学から音

すでにシャンソンで生きていこうと決めていた上野学園高等学校2年生のとき（右が宇野さん）

凛々しいいでたちで熱唱する若き日の宇野さん（神戸）

楽が学べるということで、一も二もなく行くことに決めました。

―― その上野学園時代に、シャンソン歌手を目指すきっかけがあったそうですね。

宇野　音楽科で声楽を学ぶようになり、自分の声の質がちょっと変わっていることに気づきました。努力してクラシック流のきれいな声を出せるようになったものの、元々の自分の声、ハスキーヴォイスで自然に歌って何か表現できるものがないだろうかと模索していた時、運命の出会いがあったんです。地元の荻窪の駅前を通りかかったら、オジサンが戸板の上にたくさんのレコードを積み上げて売っていました。そこで見つけたのが、350円で売られていた『日本のシャンソン』というペラペラなソノシートのレコード盤。これを買って家で聴いた瞬間、「これだ！」と（笑）。高校１年生の春のことでした。これをきっかけに、シャンソンにのめり込んでいくようになりました。

―― 武蔵野に進むに至ったいきさつは？

宇野　NHKの児童合唱団の指揮をしていた堀内 環さんを介して『今日でお別れ』等の作曲家である宇井あきら先生に師事することとなりました。先生は武蔵野の前身の武蔵野音楽学校出身ということもあり、「プロになりたいなら、武蔵野音楽大学で基礎を磨きなさい」とアドバイスしてくださったので、当時はあった短期大学部に進学することにしたんです。この武蔵野の２年間は、我ながら本当に真面目に勉強しましたね（笑）。

野球部の仲間たちとバンド活動

―― 武蔵野時代の思い出をお聞かせください。

宇野　たくさんあります。武蔵野で過ごした日々は、その後の私の未来が凝縮したものだったような気がします。今になって、つくづく武蔵野にお世話になって良かったなと思います。世界が広がりました。明日が夢だと思えるようになりました。友達関係が信じられないくらい広がりました。上野学園もけっこう地方から来ている生徒がいましたが、武蔵野はその比ではなく日本中から学生が来ていましたから。それと、私、野球部に入っていたんです。

―― 野球部ですか？

宇野　はい。と言いますのは、野球部は学園祭のときにCIAO（チャオ）という模擬店を出すのですが、夜はジャズなどを演奏するライブハウスになるんです。そこに野球部の部員たちでピンクムードオルケスタというバンドを組んで出演するんですが、それに参加するように誘われて入部したわけです。ですから野球に関してはプレーはしないで、応援係みたいなものでした。そのメンバーの何人かは生活費、学費を稼ぐために、夜、キャバレーなどで演奏するアルバイトをしていました。大学からは禁止されていた行為ですが、もう時効ですね（笑）。夏休みなどに、このバンドで地方に演奏に出掛けたりもしました。大学時代、私はシャンソンの世界では有名な銀巴里というライブハウスで歌っていました。

―― 大学の勉強、ピンクムードオルケスタの活動、銀巴里の舞台…かなり忙しかったのでは？

宇野　好きなことばかりでしたから、忙しくても楽しかったですね。バンドのメンバーとは卒業後もずっと仲が良くて、ニュルンベルク交響楽団にテューバ奏者で入団した仲間のひとりが誘ってくれたことで、後にニュルンベルクのオペラハウスや聖マルタ教会で楽団員と共演したり、コンサートを開くことができました。

―― 宇野さんが通っていた時代のキャンパスと江古田新キャンパスを比べて、いかがでしょうか？

宇野　何もかもが大違い。新キャンパスはとにかく立派で、これならどこの国の人にも誇れますね。昔は大学の外に音が漏れていて、それはそれで音大ぽくて楽しかったのですが、今のキャンパスの防音はすごいですね。

その人なりの歌を相手に届ける

―― 武蔵野卒業後、どのような音楽活動をされてきたのでしょうか？

由緒ある聖マルタ教会でのコンサート（ドイツ・ニュルンベルク）

バタヤンの愛称で親しまれた昭和の大スター・田端義夫さんと
開演前のツーショット

宇野　舞台が中心ですね。私が若い頃はライブハウスが全盛でしたから、日本中のライブハウスを回りました。

── 歌うのはやはりシャンソンが主ですか？

宇野　いえ、シャンソン以外にも色々なジャンルの曲目を歌います。季節やお客様の世代などに応じて、その都度、曲目は変えます。

── 宇野さんはシャンソンの教室も主宰されていますよね。

宇野　12、３年ほど前から始め、場所は日本橋三越のカルチャーサロン、市川、所沢、小手指、岡山、福岡の６ヵ所でやっています。教室形式やリモートもありますが、基本はグループレッスンと個人レッスンです。

── 指導するにあたって最も大切にしているポイントは何でしょう？

宇野　曲にもよりますが、あくまでも言葉は自然にということ。譜面は単なる資料です。肝心なのは、その中でどう歌うか。特にシャンソンだったら、フランス語で付いている音が譜面に書いてありますよね。その通りに日本語で歌ったら、イントネーションがおかしくなります。日本国内でも地方ごとに微妙にイントネーションは異なりますから、あくまで標準語のイントネーションに音を変えます。コードの中で合っていればOK。伸ばす所を縮めてもいいんです。相手に向けてどう歌を届けるかが大事なんです。それと、その人なり、その人特有の声を活かすようにしています。ガサガサでもガラガラでも、どんな声でもいいんです。その人にしか歌えない歌があるのですから。

53年前に録音した『サザエさん』

── 『サザエさん』の主題歌を歌うに至った経緯をお聞かせください。

宇野　NHK教育テレビ（現在のEテレ）の『できるかな』の仕事をしていた22歳の頃、担当ディレクターから突然ある男性を紹介され、その方から譜面を渡されて「ちょっと歌ってみて」と言われました。言われるままにスタジオに入って、その方のピアノの伴奏で初見で歌ったんです。後で知ったのですが、その男性こそ『サザエさん』を作曲した筒美京平さんでした。他にも候補者がいて、オーディションみたいなものだったんですね。結局、私に決まり、それから暫くして録音することになりました。

── 1969年に録音したその歌声が、半世紀を経た今も毎週日曜日に流れているということですね。

宇野　そうですね。ただ、録音した時点ではアニメ化が実現するかどうかハッキリしておらず、見切り発車でした。実際にアニメが始まっても、最初は３ヵ月か半年で終わるかもしれないとディレクターは思っていたそうです。それがなんと50年以上も続くなんて…感慨無量です。

── あらためて宇野さんにとって『サザエさん』とは？

宇野　ドイツの教会で『サザエさん』を歌ったとき、現地の方たちがハミングで一緒に口ずさんでくれたんです。大感激しました。日本人の誰もが知っている曲を歌えたことは本当に幸せです。そして、曲は知られていても、ほとんどの人が私の顔を知りません。曲は注目されても私は注目されない、これが最高に幸せなんです（笑）。あの曲があるから、今の私がある。『サザエさん』は私にとって、宝物以外の何物でもありません。

── 最後に、これからの夢、武蔵野の後輩たちへのメッセージをお願いします。

宇野　私には何々をしたいというような夢はありません。明日が夢なんです。シャンソンを知ったのも、素晴らしい先生に出会えたのも、武蔵野に入ったのも、武蔵野で友人関係が広がったのも、『サザエさん』を歌うことになったのも…言葉は適切か分かりませんが、すべて“たまたま”です。自分で思っていなくても、自然と道が拓けてくるんです。神様に感謝しかありません。どんな明日がやって来るのか、ワクワクが止まりません。後輩の皆さんにお伝えしたいのは、大学時代に音楽を通じて色々な人と巡り合うことが、今後の人生をどれほど豊かなものにしてくれるかということです。かけがえのない４年間を、ぜひとも大事にしてください。

本学 福井学長と新緑の清々しいリストプラザにて。学長は、宇野さんのご子息である空手家 加藤邦顕氏の道場で練習するなど、氏と交流を深めている

令和3年度 大学機関別認証評価受審

本学は、令和3年度に（公財）日本高等教育評価機構の機関別認証評価を受審し、令和4年3月16日付で「日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合している」と認定されました。

評価は同機構が定める6つの基準のほかに、各大学が個性・特色として重視している領域に関して大学が独自に設定した基準により行われます。

今回の受審で、評価理由に加え公表された「優れた点」は5点、「参考意見」は2点、「改善を要する点」は皆無でした。

公表された5点の「優れた点」は以下のとおりです。

○使命・目的及び教育目的などを学長による学内関係者への説明、ホームページ、シラバス、学生便覧、各種資料の配付などにより学内外へ周知を徹底していること。

○返還義務のない独自の奨学金制度を設けており、令和3（2021）年度に対象・給付額・採用数等大幅に拡充したこと。

○音響に優れた複数のコンサートホール、リハーサルホールを有しており、最適な音響を考慮したレッスン室が設置されていることは、音楽大学の学修環境として優れており、学生の学修成果及び意欲向上に資していること。

○楽器ミュージアムは、学芸員課程実習施設のみならず、希少な楽器や資料の保全の観点からも文化的・歴史的価値が大きく、一般社会にも門戸を開いていることから社会貢献においても優れた施設であること。

○江古田キャンパスは、最新の設備をそろえ、衛生面、環境保全、防災・災害対策などの安全配慮や危機管理において優れていること。

本学では、今回の評価にとどまらず、積極的に自らの課題に対し改善向上方策を実践し、高等教育機関として、また、我が国の文化芸術の振興に寄与する音楽大学として、更なる充実・発展に努めて参ります。

地域社会の発展を目指し入間市と協定

2月27日、入間市と本学は、包括的な連携及び協力を推進することにより、地域社会の文化・芸術・まちづくり等の振興を図ると共に、活力ある魅力的な地域社会の形成、人材育成及び両者の発展に寄与することを目的として、包括連携協定を締結しました。今回結ばれた連携協定では、①教育及び人材育成に関すること ②文化芸術の振興に関すること ③地域貢献のための各種事業に関すること ④施設設備の供与に関すること ⑤その他の5つが連携協力事項として締結されました。

この協定により、今後入間キャンパス バッハザールの貸出等を通じて、文化芸術の振興や、教育と人材育成のための取り組みが促進されます。当日は杉島理一郎入間市長と本学福井直昭学長が登壇し、本学バッハザールにて和やかな雰囲気の中、式が執り行われました。

No.55

音｜楽｜の｜万｜華｜鏡｜

寺本まり子（本学音楽学特任教授）

記念年の作曲家　シュッツ

J.S.バッハのちょうど100年前に生まれたハインリヒ・シュッツ（1585-1672）は、87年の生涯を送り、本年が没後350年に当たる。ザクセン地方の出身であるが、ヘッセン方伯モーリツに音楽的才能を見出され、カッセルで宮廷礼拝堂聖歌隊員を務めた。さらに1607年には方伯の奨学金によりヴェネツィアに留学した。1613年に帰国後、ザクセン選帝侯ヨハン・ゲオルク１世の懇請を受けて、1615年にはドレスデンに移り、2年後には選帝侯宮廷楽団楽長に就任、ほぼ生涯にわたってこの地位にあった。

ライプツィヒ大学図書館所蔵

シュッツの創作活動の中心は、多くが旧訳聖書の「詩編」に基づく宗教的声楽作品である。イタリアで学んだ複合唱様式による壮麗な26曲を収めた、1619年の最初の宗教曲集《ダヴィデの詩編曲集》は、妻マグダレーナとの結婚式の日に出版され、選帝侯に献呈された。しかし、1626年に妻が急逝、シュッツは《ベッカー詩篇曲集》を曲集としてまとめることで、悲しみの内にも慰みを見出そうとした。これはライプツィヒの神学者C.・ベッカーによるドイツ語の韻律詩編に基づき、最上声部の旋律を下声部が支える４声の形で作曲された。

1635年にはシュッツの生地を治めるロイス侯ハインリヒ・ポストゥスが亡くなり、侯が選んだ詩編第73編により３部分構成の《音楽による葬送》（1636）を作曲、特に第2部はヴェネツィア風の複合唱の技法を駆使した壮麗な作品に仕上げられている。そして1656年に楽長職から引退したシュッツは、ヴァイセンフェルスで創作活動に励み、85歳の1670年には最後の作品《白鳥の歌》を書き上げた。自身の追悼説教用に詩編第119編第54節を選んだシュッツは、詩編全体の中で最長の、ヘブライ語の22のアルファベット順に整えられたこの詩編を11曲のモテットとして作曲した。この作品は、複合唱の手法は取っているが、《音楽による葬送》と比べると、その様式は極めて簡素である。詩編は聖書全体の「この上なく美しい要約」と考えていたルターに従い、ここでのシュッツの関心は、もっぱらドイツ語の聖句の忠実な、印象深い再現に向かっていると言える。ライプツィヒの画家Ch.・シュペートナー（1617-99）によるこの肖像画は、65歳（1650年）頃のシュッツを描いている。

大学

晴れやかに、旅立ちと出会い

３月23日、本学ベートーヴェンホールにて「令和３年度 武蔵野音楽大学 音楽学部卒業式・大学院学位記授与式・大学別科修了式」が執り行われました。オルガンの演奏（石丸由佳講師）により開式し、冒頭に大学音楽学部を代表して田中結女さん（演奏学科器楽コース 打楽器専攻）に、福井直昭学長より卒業証書・学位記が授与されました。大学院修了生には、長年の研鑽が称えられ学長から一人ひとりに学位記が手渡された後、別科の代表生にも修了証書が授与されました。

学長式辞では、「人生には、決まった道標はありません。しかし、だからこそ皆さんは武蔵野で磨かれた己の知と感性を駆使し、おそれることなく道を切り開いていって下さい。そうすれば、必ず皆さんの前途は洋々としているはずです。皆さんが、幸せで充実した人生を送られることを心より願います」と力強いメッセージが贈られました。続いて卒業生を代表して髙橋七海さん（演奏学科ヴィルトゥオーゾコース ピアノ専攻）が答辞を述べ、最後に、あらかじめ大学院修了生によって録音された「ほたるの光」が会場に流れ、厳かな雰囲気の中、心に残る式典が終了しました。

閉式後、卒業生たちは学内に設置されたフォトスポットで、学生時代をともに過ごした友人、教員と記念撮影をするなど、名残を惜しんでいました。

４月１日には、同ホールに式服に身を包んだフレッシュな新入生を迎え、「令和4年度武蔵野音楽大学 音楽学部・大学院・大学別科入学式」を挙行しました。オルガン演奏に続く福井学長の式辞では、始めに本学の建学の精神、教育の方針を丁寧に示された後、自分の学生生活は自分でマネジメントをして時間を有意義に使うこと、生涯の友人を作ること、自身の行動には責任をもつことなどをアドバイスされ、「自分の可能性を信じて夢が叶うよう元気に大学生活を送ってください。」と締めくくられました。続いて曽田美音さん（演奏学科ヴィルトゥオーゾコース ピアノ専攻）による新入生代表宣誓では、これからの大学生活への決意が述べられ、閉式となりました。

続く４月５日には、学友会主催の新入生歓迎会がベートーヴェンホールで開催されました。華やかなファンファーレで第１部が始まり、学友会委員長、学務部長の挨拶に引き続き、先輩たちによる歓迎演奏会が開かれました。第２部では学友会の紹介、クラブPRなどが行われ、新入生たちにとって、これからのキャンパスライフのよき指針となりました。

Musashino Topics

▶本学名誉教授の称号授与

永年にわたる教育上、学術上の顕著なご功績により、令和４年４月１日付で佐伯隆夫（フルート）、平良栄一（声楽）の二氏に武蔵野音楽大学名誉教授の称号が授与されました。

▶令和３年度音楽大学卒業生演奏会（桃華楽堂）

令和４年３月18日、皇居内にある音楽ホール桃華楽堂で、在京の５音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が開催されました。本学からは、髙橋七海さん（ピアノ独奏）が出演し、リスト作曲ノルマの回想 S.394を披露させていただきました。

▶令和３年度クロイツァー賞受賞者

日本のピアノ音楽発展に寄与した故レオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。教授とゆかりが深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。令和３年度、本学からは大学院音楽研究科修士課程器楽専攻ヴィルトゥオーゾコース修了の佐藤陽十さんが選ばれました。

受賞者による演奏会は、令和４年７月７日19：00 東京文化会館小ホールで開催されます。

附属高等学校

思い出をきざんだ春の行事

附属高等学校では、卒業式を控えた２月27日、在校生の心を込めた演出による「３年生を送る会」に引き続き、「ドリームコンサート2022」がバッハザールにて開催されました。この演奏会は、３年生にとって生徒全員で取り組む最後の発表の場で、杉島理一郎入間市長をはじめ約400名のご来場があり、生徒たちの３年間の努力と成長に対し温かい拍手が贈られました。

３月１日、令和３年度卒業式がバッハザールにて挙行され、パイプオルガンによる奏楽“「瑞風」の序”［作曲：伊東光介教諭／演奏：秋本奈美（本大学院修士課程修了）］で幕が開きました。卒業証書の授与の後、福井直昭校長の式辞、送辞、答辞と続き、卒業生による合唱「仰げば尊し」が式場に響き渡ると、参列者一人ひとりの胸には万感の思いがこみあげました。

年度が明け、桜が満開を迎えた４月３日、令和4年度入学式がバッハザールにて挙行されました。期待と不安が入り混じった面持ちの新入生ではありましたが、パイプオルガンによる奏楽（演奏：石丸由佳講師）に華やかに迎えられ、校長より温かな式辞を贈られて、新入生はこれから始まる高校生活への希望を新たにし、武蔵野での第一歩を踏み出しました。

翌４日には始業式をはじめ、新入生と新２・３年生による対面式、新入生歓迎演奏会が実施され、先輩たちの演奏に新入生たちは熱心に耳を傾けていました。５日の江古田キャンパスにおける校長による訓話から、本格的に新年度の授業がスタートしました。

附属幼稚園

春にかがやいた園児たちの笑顔

各幼稚園では、３月の終わりにさまざまなイベントが続きました。年長になって始めたヴァイオリンや合唱などを披露する「ひな祭り音楽会」や「表現発表 桃の会」が開催され、大きな舞台で見事にこれまでの成果を発揮する子供たちの姿からは、表現する楽しさが伝わり、成長が感じられる演奏会となりました。卒園を前に開催されたお別れ会では、在園児から歌や手作りのプレゼントが贈られるなど、友達と楽しいひと時を過ごし、たくさんの思い出を作りました。修了式当日は、保護者が見守る中、園長から一人ひとり修了証書を受け取り、立派に成長した姿で幼稚園を巣立っていきました。

４月に入り桜の花びらが舞う中、「入園式」が行われ、可愛らしい制服姿の子供たちが登園しました。初めて友達と出会って緊張した様子が見られましたが、遠足や運動会、季節の行事を通して、少しずつたくましさを身につけていくことでしょう。

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人　武蔵野音楽学園

同窓生

安藤せつ子様　石田淑子様　林　秀樹様
飯泉祐美子様　高橋寿奈様　持田隼人様

役員・教職員・一般・他

安西博子様　佐藤しのぶ様　永岡信幸様　前川愼一郎様
岡　珠世様　重松万里子様　野村邦武様　渡邉規久雄様
坂下裕子様　田中　悠様　堀内康雄様

（他に匿名を希望される方６名）

※ご芳名（五十音順）は、2021年12月21日から2022年3月31日までにご寄附いただいた方々です。
それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。
※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

名　称	内　容	氏　名
令和４年春の叙勲	瑞宝双光章	杉木貴喜（1980年修士修了・音楽学）
令和３年度和歌山県文化表彰	文化功労賞	多田佳世子（1960年短期大学部卒業・声楽）
新日本フィルハーモニー交響楽団	首席オーボエ奏者として入団（2022年５月）	神農広樹（2015年大学卒業・オーボエ）
2022 “Golden Classical Music Awards” 国際コンクール（アメリカ／オンライン）	シニア部門 第１位	吉原麻実（2021年修士修了・ピアノ）
Global Genius Music Competition 2021 秋季（イギリス／オンライン）	カテゴリーＨ（22歳以上）金賞	依田真理（1990年大学卒業・ピアノ）
第21回リヴィエラ・エトルスカ音楽コンクール（イタリア／オンライン）	オペラ部門 “Galliano Masini” 第２位	土屋優子（2012年修士修了・声楽）
第７回オペラ国際コンクール “A RUOLI D’OPERA” 2021（イタリア）	入賞、ミラノ ポリ劇場にてオペラ出演。（2022年４月／カヴァレリア・ルスティカーナ サントゥッツァ役）	土屋優子（2012年修士修了・声楽）
World Classical Music Awards 2021（イギリス／オンライン）	シニアカテゴリー B3（26歳以上）銀賞	依田真理（1990年大学卒業・ピアノ）
第８回ノース国際音楽コンクール（スウェーデン／オンライン）	ピアノ部門 カテゴリー XI（30歳以上）第３位	依田真理（1990年大学卒業・ピアノ）
MUSIC & STARS AWARDS 2021（エストニア／オンライン）	ピアノプロフェッショナル部門（28歳以上）銅賞	依田真理（1990年大学卒業・ピアノ）
第21回ユリウシュ・ザレンプスキ国際音楽コンクール（ポーランド／オンライン）	ピアノソロ部門 カテゴリーＥ（20～27歳）第３位	恒本優花（大学２年・ピアノ）
第29回・第30回サウンズコンテスト ON THE COMPUTER（主催：大分県情報サービス産業協会）	トリニータ応援歌部門　最優秀賞	大塚考浩（2004年大学卒業・ピアノ）
第42回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	声楽部門 大学生の部 第１位	上田　駆（大学１年・声楽）
第６回JETA学生ソロコンクール	ユーフォニアム シニア部門 第１位	杉田優希（大学２年・ユーフォニアム）
第２回グランディール音楽コンクール 全国大会	弦楽器部門 大学・一般コース 動画審査 金賞／実地審査 優秀賞	青山真梨花（修士２年・チェロ）
第31回日本クラシック音楽コンクール 全国大会	クラリネット部門 一般の部 第３位（1位、2位なし）	小嶋慶子（2005年大学卒業・クラリネット）
第24回 “万里の長城杯” 国際音楽コンクール	ピアノ部門 大学の部 第２位	松﨑愛実（大学４年・ピアノ）
第13回全日本ピアノオーディション	専門Special部門 銀賞	横地ちひろ（博士１年・打楽器）
第24回九州音楽コンクール	声楽部門 一般クラス 審査員特別賞（最優秀賞なし）	坂脇美規（1989年修士修了・声楽）
第１回プリモ芸術コンクール	ピアノ部門 準グランプリ（グランプリなし）	後藤光希（2022年修士修了・ピアノ）
第12回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会	自由曲コース 大学Ａ部門 銅賞	長谷川茉子（大学１年・ピアノ）
第15回ベーテン音楽コンクール	自由曲コース ピアノ部門 一般ＣⅠの部 第３位	藤井岐江（1989年大学卒業・ピアノ）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。掲載は順不同、敬称略、学年は受賞時のものです。

2023年度 大学音楽学部入学者選抜（1年次）の変更について

近年の入学者選抜の改革により、また受験生のニーズに応えて、2023年度入学者選抜試験より右記のように総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校）の実施内容を変更しました。全ての学部1年次入学者選抜で、出願手続きにWeb出願を導入するとともに、試験実施方法を「対面方式（通常入試）」と「オンライン方式」のいずれかを選択できることになりました。

これにより武蔵野音楽大学への扉が大きく開かれることになりました。なお、一般選抜A・B・C日程は従来どおり実施します。

総合型選抜	
試験は２回、10月と12月に実施。演奏学科・音楽総合学科の全コースを募集します。	募集人員80名
学校推薦型選抜（指定校）	
試験は1回、11月に実施。演奏学科・音楽総合学科の全コースを募集します。	募集人員120名

※詳細は、「2023年度 音楽学部第１年次入学者選抜要項」を参照してください。

2022年度 受験講習会

講習会名		日程	申込期間	会場
夏期受験講習会Ⅰ期	大学	8月 4日㊍～8月 6日㊏	6月 7日㊋～7月15日㊎	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
	高校	8月 4日㊍・8月 5日㊎		
夏期受験講習会Ⅱ期	大学	8月25日㊍～8月27日㊏	6月 7日㊋～8月10日㊌	
	高校	8月25日㊍・8月26日㊎		
秋期受験講習会	大学・高校	9月17日㊏・9月18日㊐	7月20日㊌～8月29日㊊	

※受験講習会要項は、本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、本学広報室へお電話にてご請求ください。（TEL.03-3992-1125）

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター
TEL.03-3992-2500

2022年 6月～10月の演奏会

6月 2日㊍ (18:30)	作曲コース教員による作品発表 作曲者＝大澤徹訓、木村真人、佐藤誠一、佐山紀彦、成宮北斗、野崎勇喜夫	ブラームスホール（江古田） ￥1,000〈全席自由〉
6月16日㊍ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート45 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝敦賀朝香（Perc.）、鬼束壮一郎（Vlc.）、金谷知歩（Pf.） 上田　駆（Bar.）、宮野恵輔（Cl.）、恒本優花（Pf.）	ブラームスホール（江古田） 無料〈全席自由・要事前予約〉
6月17日㊎ (18:30)	ニュー・ストリーム・コンサート46 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ 出演＝阿部和輝（Fg.）、杉田優希（Euph.）、丸山真一郎（Vln.） 木名瀬遥介（C-Ten.）、加藤愛海（Cl.）、入岡美澪（Pf.）	ブラームスホール（江古田） 無料〈全席自由・要事前予約〉
6月30日㊍ (18:30)	ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル 曲目＝ショパン：ピアノ・ソナタ 第3番 ロ短調 Op.58 プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第7番 変ロ長調 Op.83 他	ベートーヴェンホール（江古田） ￥1,000〈全席自由〉
7月 8日㊎ (18:30)	高嶋ちさ子 ヴァイオリン公開講座	ベートーヴェンホール（江古田） ￥2,000〈全席自由〉
7月19日㊋ (18:30)	ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝武田　晃 曲目＝真島俊夫：三日月に架かるヤコブのはしご、小田実結子：夜明け ホエアー：ストーンヘンジ交響曲、デ・メイ：交響曲 第１番《指輪物語》	東京オペラシティ コンサートホール ￥1,500〈全席指定〉
9月19日㊊祝 (18:00)	管弦楽団演奏会 指揮＝北原幸男　ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者 曲目＝ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11 ショスタコーヴィチ：交響曲 第５番 ニ短調 Op.47 他	ベートーヴェンホール（江古田） ￥1,500〈全席自由〉
9月21日㊌ (18:30)		東京オペラシティ コンサートホール ￥1,500〈全席指定〉
9月25日㊐ (14:00)	附属高等学校音楽科　第26回在校生と卒業生によるコンサート ※お問い合わせ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL：04-2932-3063	ブラームスホール（江古田） ￥1,000〈全席自由〉
10月 5日㊌ (18:30)	グレッグ・ニェムチュク ピアノ・リサイタル 曲目＝ショパン：ノクターン Op.55、バラード Op.23 他	ベートーヴェンホール（江古田） ￥1,000〈全席自由〉
10月 8日㊏ (14:00)	入間市「市民コンサート」　管弦楽団演奏会 主催／入場整理券・お問合せ＝入間市立中央公民館　TEL：04-2964-2413 指揮＝ 時任康文　オーボエ独奏＝村田真理子（大学院修士課程ヴィルトゥオーゾコース２年） 曲目＝チャイコフスキー：スラヴ行進曲Op.31、ルブラン：オーボエ協奏曲 第1番 ニ短調 ブラームス：交響曲 第4番 ホ短調 Op.98	バッハザール（入間） 無料〈全席自由・要入場整理券〉

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために演奏会の開催が延期、中止または入場者の制限をさせていただく場合があります。
ご来場前に本学ウェブサイトでのご確認または、本学演奏部にお問い合わせください。
※チケットは本学ウェブサイトより購入できます。　●お問合せ　武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120

オープンキャンパス・学校説明会＆体験レッスン

オープンキャンパス

開催日	主な実施内容	会場
6月19日㊐	ガイダンス（大学案内）、体験レッスン、学生によるコンサート、キャンパスツアー、体験授業、進学相談、保護者説明会、附属高等学校説明会	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
7月17日㊐		
8月 7日㊐		
9月11日㊐		

学校説明会＆体験レッスン

開催日	開催地	会場
6月 4日㊏	長野県長野市	長野市芸術館 リサイタルホール
6月 5日㊐	神奈川県横浜市	ミュージックアベニュー横浜
6月12日㊐	福島県郡山市	ヤマハミュージック 郡山店
6月12日㊐	千葉県千葉市	ヤマハミュージックリテイリング 千葉店 千葉センター
6月26日㊐	北海道札幌市	ガイダンス会場：六花亭札幌本店きたこぶしホール レッスン会場：ヤマハ札幌センター
6月26日㊐	宮城県仙台市	仙台中央音楽センター IVy Hall
7月 3日㊐	愛知県名古屋市	日響楽器 池下店
7月 3日㊐	岡山県岡山市	岡山シンフォニーホール イベントホール
7月 9日㊏	大分県大分市	iichiko総合文化センター 音の泉ホール
7月10日㊐	香川県観音寺市	ハイスタッフホール 小ホール

※事前申し込みが必要です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。
【お問合せ】 武蔵野音楽大学 入学センター TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

2022年度 免許法認定講習

講習会名	日程	申込期間
免許法認定講習	7月23日㊏ ～8月 3日㊌	7月 1日㊎消印 ～7月13日㊌必着
会場		
武蔵野音楽大学　江古田キャンパス		

※詳細は要項でご確認ください。要項は、本学ウェブサイト内に掲載します。
【お問合せ】武蔵野音楽大学 学務部 TEL.03-3992-1128

編集後記

コロナ禍が終息を見ないなか、ロシアのウクライナへの軍事侵攻という世界を震撼させる事態が生じました。そんなウクライナの防空壕において、ひとりの少女が映画『アナと雪の女王』の主題歌「レット・イット・ゴー」を歌い、避難者の心を癒しました。この映像はSNSを通じて世界中に拡散し、あらためて音楽の持つ力を知らしめました。

また、今号の巻頭では伊熊よし子さんが、才能あふれる若手演奏家を紹介されています。彼らに続いて、本学の多くの後輩たちも世界に羽ばたくことを期待します（編）。

武蔵野音楽大学ウェブサイト　https://www.musashino-music.ac.jp/

Contents Vol.140 2022

1	ごあいさつ	学長 福井直昭
2	巻頭	国際舞台に飛翔する若き才能に注目　伊熊よし子
7	卒業生インタビュー	『サザエさん』は私の宝物　宇野ゆう子
10	Musashino News	令和3年度 大学機関別認証評価受審 地域社会の発展を目指し入間市と協定 大学　晴れやかに、旅立ちと出会い 附属高等学校　思い出をきざんだ春の行事 附属幼稚園　春にかがやいた園児たちの笑顔
10	音楽の万華鏡	「記念年の作曲家　シュッツ」　寺本まり子
13	Campus Information	武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等） 2023年度 大学音楽学部入学者選抜（1年次）の変更について 2022年度 受験講習会 2022年 6月～10月の演奏会 オープンキャンパス・学校説明会＆体験レッスン 2022年度 免許法認定講習

表紙の写真

ブラームスホールの斬新な壁面デザイン。木の練り付け材、木リブ材、御影石、大谷石、磁器質タイル、ガラス等――音響特性の異なる様々な材料を組み合わせて構成されており、ホールの優れた音響性能の実現に貢献するとともに、その表情ゆたかなデザインは来場者に現代的な印象を与えています。

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1　TEL. 03-3992-1121（代表）

入間キャンパス　〒358-8521 埼玉県入間市中神728　TEL. 04-2932-2111（代表）

パルナソス多摩　〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1　TEL. 042-389-0711（代表）

武蔵野音楽大学大学院 博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

武蔵野音楽大学ウェブサイト https://www.musashino-music.ac.jp/

MUSASHINO for TOMORROW Vol.140

発行：2022年6月　学校法人 武蔵野音楽学園　通巻第140号